

ホンジュラスにおける

基礎教育総合強化モデルプロジェクト (PROEPA) での活動

加藤 園乃美

(16-1, ホンジュラス, 小学校教諭, 前橋市立新田小学校)

1 任国の概要

ホンジュラスは中米のカリブ海に面した国で、国土は日本の約 3 分の 1 である。1828 年にスペインから独立し、以後独立国家としての道を歩む。他の開発途上国同様に、都市部と農村部の貧富の差が激しく「マラス」と呼ばれる集団による殺人、窃盗などが大きな問題になっている。政府の公約として、教育の充実は常に掲げられているが、留年制度や教員の指導力不足、給料問題、子供が労働力として必要などのさまざまな理由から、目に見えての改善は難しい現状である。人々はとても穏やかで明るい。底抜けの明るさというよりは少し恥ずかしがりやなところもあり、隊員同士では「日本人に少し似てるね」と言われていた。



写真 1 首都テグシガルパ

2 ホンジュラスにおける基礎教育総合強化プロジェクト (PROEPA)

(1) プロジェクトの概要

ホンジュラスの教育分野にはプロジェクトが 2 つある。1 つは算数教育をターゲットにした、「算数指導力向上プロジェクト (PROMETAM)」、もう 1 つが算数も含め子供、家庭、地域に総合的なアプローチをすることによって基礎教育のレベル向上をめざす「基礎教育総合強化モデルプロジェクト (PROEPA)」である。2 つとも「義務教育における留年率、退学率の低下」を目標としている。私は PROEPA の隊員として活動した。

目標 小学校における留年率、退学率を下げる

第 1 フェーズ(2001～2005)	第 2 フェーズ(2006～)	第 3 フェーズ
実地調査とそれに基づく活動の展開、教材の開発、第 2 フェーズへ持っていく活動の精選とマニュアルづくり	エルパライス県全域展開、第 3 フェーズに向けさらに精選するためのモニタリングと修正 この時点で終了もある	国認可のマニュアル、教材として全国展開

私が赴任した 2004 年はまだこの流れが決まっていない時期で、プロジェクトメンバーと JICA 事務所と会議を繰り返し一応の流れを決めた。それにより、ちょうど私の任期は第 1 フェーズから第 2 フェーズに移行する時期になり、それまでの隊員の仕事とはかなり違うことをやることになった。

(2) 隊員の職種と任地

- ・プロジェクトコーディネーター→隊員と事務所との調整。プロジェクト全体像の把握、企画等
- ・小学校教諭→小学校での学力向上、教員の指導力向上のためのアプローチ
- ・幼稚園教諭→就学前教育の質の向上、教員の育成
- ・保健師→学校保健指導、家庭での保健衛生教育
- ・村落開発員→保護者の意識改革、地域教育環境向上

プロジェクト総勢約 14 名
オロポリ、グイノペ支部に分かれる

任地は首都からバスで約 2 時間半のグイノペという地域で、小学校教諭は 2 ～ 3 人である。

3 活動

活動場所であるグイノペのプロジェクト対象校は 5 つ (交通手段、人数の関係上) である。

(1) 2005 年 8 月までの活動

① ホンジュラスの小学校教育の現状把握

- ・小学校訪問・授業観察・年間指導計画の把握
- ・アンケート・聞き取り調査
- ・教科書内容の把握
- ・主要教科以外の実施状況把握

② 教員の指導力向上

- ・月 1 回の教員研修の実施 (CAD を利用)
- ・公開授業の実施 (単、複式学級共に年 1 回ずつ)
- ・学級経営マニュアルの月刊発行
- ・教育大会 (年 1 回) の開催

③ 学力向上

- ・朝自習 (基礎計算力向上) マニュアルと教材の開発、モニタリング
- ・現地教員による標準テストの作成、児童への一斉実施
- ・休日を利用した補習活動
- ・学校放課後の補習の啓発
- ・地域人材の発掘
- ・学習遅延児に対する算数の補助教材マニュアルの作成



写真 2 小学校訪問



写真 3 公開授業



写真 4 学級経営マニュアル



写真 5 朝自習



写真 6 標準テストの作成

通常の1日の流れ

7:30 授業開始・朝自習など活動のモニタリング
8:00~12:30 授業観察、補助、音楽の授業
14:00~19:00 事務所企画、会議、教材開発、
マニュアル作りなど
19:00 ホームステイ先に帰宅

小学校教諭3人でこの仕事をやっていたわけだが、「ここは日本？」と思うほど忙しかった。幸いにしてグイノペの先生達は私達に協力的な人が多く、だから活動の成果も出やすかったのだと思う。カウンターパートの元グイノペ教育長のソイラは非常に頭の良い女性で、公私ともに一番身近なパートナーであった。

(2) 2005年8月から2006年3月までの活動

① 第2フェーズに持っていく活動の選抜

4年間のプロジェクト活動のなかでグイノペ、オロポリ共にそれぞれの職種が行った活動の中で汎用性・有効性・持続性に優れたものを選抜した。結果、12の活動のなかで5つの活動が選ばれ第2フェーズにむけての本格的なマニュアル作りが始まった。

② マニュアル作り

5つの活動の中で、私はグイノペの小学校教諭隊員が行っていた活動である「学級経営マニュアル」と基礎計算の能力向上のための「朝自習マニュアル」の作成に関わった。半年後にはそれらが大量生産されてエルパライス県全域に配布され、たくさんの教師や子供たちが使うものであるため、教材の見直し、実施方法の効率化も含め本当に時間との戦いであった。マニュアル作りのために短期隊員としてグラフィックデザイナーの方も来られ、「出版物を作る」という今までに経験したことのない仕事をさせてもらった。

○主な仕事

- ・データのまとめ
- ・簡潔にわかりやすく、正しいスペイン語に
- ・入稿 ・乱丁チェック ・配送計画
- ・研修用マニュアルの作成

③ マニュアル普及のための研修

マニュアル完成後の2005年の2月から、5つの活動をマニュアルに沿って実施

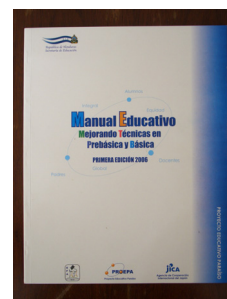


写真7 マニュアル

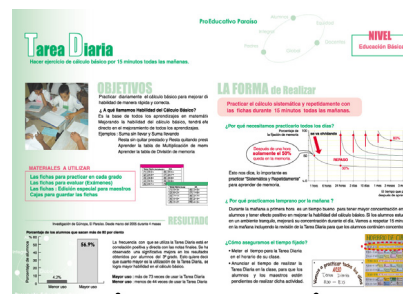


写真8 朝自習のページ(1部分)

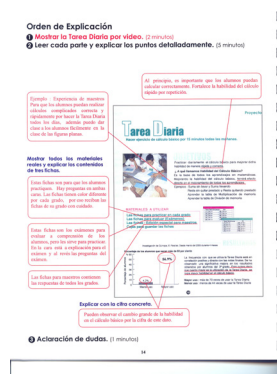


写真9 研修用マニュアル

するための研修を行った。まず、県、市の教育長、指導主事に対して2日にわたる研修を行い、彼らがそれぞれの地区で教員に同じ研修をする方法を想定した。その教育長以下研修実施者のために「研修マニュアル」、いわゆる赤本を作成し、具体的な活動のイメージをもちながら研修するためのビデオも使った。まず、プロジェクトのカウンターパートである2人の先生に見本研修をしてもらい、指導主事たちが小グループに分かれて実際に自分たちができるかどうかお互いに模擬研修を行った。その後、彼らが各地区で研修を行う際にはプロジェクトメンバーが手分けをして見に行き、全国展開したときにこのトップダウンの研修システムが可能かどうかをモニタリングした。その際、マニュアルや教材の配布の指示やチェック同時並行して行った。



写真 10 教育長向け研修会



写真 11 教育長、指導主事達

3 活動を振り返って

(1) 全体として

・人間関係の大切さ

まじめさやルーズさなど国民性はかなり違う部分があるのは当たり前だが、いろいろなことを要求することだけでなくまずは遊びや、文化交流を通して人間関係を作ることが大切であることを実感した。よい人間関係ができれば、こちらが本気でやろうとしていることに必ず答えてくれる人がある。

・言葉の大切さ

「言葉をしゃべれるかどうか」によって、「どのくらい自分たちの言語を本気で学ぼうとしているか」を見られていたような気がする。ホームステイの家族がとても厳しく、でもわかりやすく言語を教えてくれたことが生活、活動のすべてに大変役立った。

・トップに立つ人の責任の重さ

国全体としての体制を変えないと解決しないことがたくさんあった。「やる気があってよい先生はたくさんいるが彼らに給料が支払われないことでモチベーションが下がる」、「〇〇長と呼ばれる人が、その経験、人柄、能力によって公平に決められるのではなく政党やコネで決まっている」など、「なぜ？」と思う理不尽なことが非常に多かった。結局、教育水準を上げないと国としてのその部分も改善されずにいつまでも同じことがくり返されるだろう。その人のやる気や能力が正当に評価される社会構造の大切さを痛感した。



写真 12 一般教員向け研修会

- ・自分の国を知ること

他国と自国との比較によって長所も短所も見えてくる。他国の文化や歴史を知っても、自国のことを知らなければ本当に理解はできない。

(2) 活動

- ・プロジェクト隊員として充実した活動を

個人隊員とプロジェクト隊員は仕事の内容も、求められているものも環境もちがう。特に私がいた2年間は「目に見える成果が出る活動をする」ことが要求され、何をやるにも期限があった。「ゆったりした時の流れの中で自分の活動が比較的自由にできること」にあこがれたこともあったが、グイノペの人たちと関わる中で先輩隊員達がどれだけ苦勞してこの人間関係を作ってくれたかを実感し、その環境の中で仕事ができる自分をととても幸せに思った。そして自分も「後輩隊員達にできるだけ良いものを残していこう」という気持ちでがんばることができた。時間を有効活用して授業を行ったり、余暇を楽しむことも自分の気持ちの持ち方一つだと思う。

- ・継続すること

毎朝のモニタリング、活動に否定的な先生の教室に「これやってみて下さい」と毎日通うことなどあの時はつらかったけれどあきらめなくてよかったと思うことがたくさんある。

- ・仕事もいいけど生活を楽しむ

生活を楽しむ気持ちがあるからその国が好きになって、仕事もやっていけると思う。「こうすべき」というものを少しゆるめて、相手と同じテンポでいられたら楽しいかな。

